

まえがき

「氣」や「氣功」のことをお話する前に、概念をどこまでご存じですか？
大事なことなので、理解していただきたいと思います。

**【人間は、物を理解するとき、無意識のうちに
物事の共通なところを見つめます。これを概念といいます】**

例えば、チワワを見ても、チャウチャウを見ても、ゴールデンレトリバーを見ても、
犬だと理解します。写真やイラストの犬を見ても、TVに映る犬を見ても、犬だと理解します。
このように、まったく違うものを見ても犬だと理解していることを概念といいます。

つまり、犬の概念があるから、犬がわかるのです。

概念がないのは、そのイメージがない、ということですよ。

他国の習慣とか、宗教とか、感覚そのものがわからない場合には、概念がないということになります。例えば、「肩こり」、アメリカにはそういう概念はないそうです。

しかし、現象として実際に肩が張って痛いことはあるので、日本に来たアメリカ人が「これが『肩こり』か」と実感して帰れば、『肩こり』という概念を理解したことになる、ということだそうです。

実際はかなり昔、ハワイ在住のアメリカの方が日本に来られたとき、施術をしたことがあります。肩を触ったら「ガチガチ」の状態。

「肩こりが酷いですね、こんな状態でつらくないですか？」と尋ねたら、

「肩こり？ ずっとこうだから……」との返事です。

施術が終わり、感想を聞くと、「信じられない！ こんなにも肩が軽く楽だなんて……ハワイにマッサージはあるけどどこも下手、誰も行かない。これを知った私はこれからどうすればいいの？」と……。

「定期的に日本へお越しください」と申し上げたら、頭を抱え込みながらも大爆笑されました。

そして、もう一つ。「定義」とは？

【一般にコミュニケーションを円滑に行うために、ある言葉の正確な意味や用法について、人々の間で共通認識を抱くために行われる作業。一般的にそれは「○○とは……である」という言い換えのかたちで行われる。基本的に定義が決められる場合は一つである。これは、複数の場合、矛盾が生じるからである】

では「 $1+1=2$ である」という定義が、なぜ、「 $1+1=2$ 」なのか……。

「 $1+1=2$ 」がなぜ成り立つのかを考えると、

「1」「2」という数の定義

「+」という操作の定義

「=」という記号の定義

により、そうなるようになっていく。

$1+1$ がもし 2 でなかったら、その先にある数学の論理が成り立たなくなる。

足し算が成り立たなくなると、引き算、掛け算、割り算も成り立たなくなり、数字の順番が成り立たなくなる。

学問というのは、現実をなんらかのかたちで表現するための一種の方法であり、「 $1+1=2$ 」になったのは昔からであり、そうなるように定義を行った。

話が長くなりましたが、いかがですか？

正直、意味がわかりません！

要するに、

普段、当たり前のように使っているモノも、常識も、

誰かが「こうしましょう」と決めたモノに過ぎないということ。

決められたモノを幼い頃より学習させられ、無意識に普通に使っているだけなのです。

例えば、西洋医学で「心臓」などの臓器の名称や役割、身体のどこにあるかはわかっていても、なぜ

「心臓」と呼ぶのかはわかりません。

「心臓」は「心臓」と疑いもなく丸暗記させられてきた、だけです。

「氣」の概念も同じです。

日本には「氣」という字を使った言葉が1000以上ある、といわれています。

氣の元と書いて「元氣」

氣の病と書いて「病氣」

氣が強いと書いて「強氣」

「弱氣」「氣力」「勇氣」「やる氣」「氣持ち」など……。

すべて生命、心に関係している言葉です。

目に見えなくても「氣」を感じ、捉えていた証ではないでしょうか。

「わからないから、知らないから」というならば、知ればいいのです。

「氣とはそういうものなのだ」と覚えればよいのです。

まるで「1 + 1 = 2」と覚えたように。

物事はすべて同じであると思います。

何も知らない、わからないことから始まり、最初は思うような理解ができなくても、教義が進むにしたがって、しだいに理解できるようになります。

本書は「まったく知らない方、興味のある方、どなたにでも理解していただけるように」を心がけています。

また、詳しい方もあらためて読むと、意外と新しい発見もあり、楽しいものです。

新しいことを知ることは、「ワクワク、ドキドキ」します。

あまり深く考えずに「そうなのか」と楽しみながら読んでいただければ幸いです。

真智護法 玄光氣道

真智護法 玄光院

玄光法師

細川 昂佑